

カワガラス 同前、羽の色が黒いのでこうした名前をつけられたが、普通のカラスとはおよそ縁遠い種類である。山地の谷川のほとりに生息している。水にもぐったり水上すれすれに飛んでゆく。

シラサギ サギ類の一般総称したものでその種類は多く、町内に見受けるのは、コサギ・ダイサギ・アオサギ・アマサギ・ゴイサギなど。最近こうしたサギが水辺や水田をあさる姿が多くなった。ゴイサギは夜行性で餌を求めるときは水辺だが普段は山林の樹上に巣をかまえ、汚物や臭気で一山を荒らす。アオサギは少し大型で花熊附近でよく見かける。

カモ 北方から冬鳥として渡来する。種類も多くコガモ・マガモ・ヨシガモ・ヒトリガモ・カルガモなどである。なお先年本庄池に二六六羽のヨシガモを数えたことがあると、信用金庫支店長の下田氏が教えてくださった。オンドリもカモの一種で本町内で見たとはい。

カモメ 冬鳥として渡来する。元来は海鳥であるが最近は今川下流から段々足を延ばして、柳瀬・崎山までもその姿を見かけるようになった。ユリカモメの群れの中にも、ウミネコ鳥も交じっているかもしれない。

ガン 以前は群れをなして空を飛んでいたが最近あまり見かけない。  
コハクチョウ 本庄池に二〇年前ごろ泳いでいたがその後死亡したと聞く。

### 三 昆虫類

まずダム環境調査結果を紹介しよう。それによると、調査地域の植物相が単調なために、山地性昆虫類の種類数・個体数ともに少なく、出現

種の大部分は福岡県の平地から低山地にかけて広く分布している普通種として次のものを挙げてみる。

ウスバキチョウ・オンブバッタ・クサギカメムシ・ツクツクボウシ・ツマダ  
ロヨコバイ・ヒメコガネ・クロウリハムシ・イチモンジハムシ・キチョウ・  
ブドウスズメ・トビイロケアリなど四八六種

貴重種として、オオムラサキ・ゲンジボタル・クロセリがあるが、これらも周辺部に生息に適した環境があるので個体数のわずかな減少にとどまるものと考えられる、と報告されている。

右のように四八六種の中に含まれる、よく見かける昆虫を列記する。  
カブトムシ・カミキリムシ・クワガタ・コガネムシ・オサムシ・セミ・ミノ  
ムシ・マツムシ・スズムシ・アリ・ハネアリ・カマキリ・キリギリス・コロ  
ギ・クツワムシ・テントウムシ・トンボ・チョウ・ハチ・アブ・ブヨ・ウ  
ンカ・カゲロウ・ケラ・カメムシ・ヘリムシ

人家の内外に見られるものは、ノミ・シラミ（これらは今ほとんどいなくなった）・カ・ハエ・ガ・コクゾウムシ・コメツキムシなど。

水辺で見かけるものは、ゲンゴロウムシ・ミズスマシ・アメンボウ・ハムシなど。

### 四 爬虫類・両生類

爬虫類・両生類についても、ダム調査で左のように報告している。

棲息しているのは、アオダイショウ・シマヘビ・カナヘビ・トカゲ・イモリ・ヤモリ・ヒキガエル・アマガエル・カジカガエルなど一六種とある。特にカジカガエルは伊良原地区の象徴動物であり、犀川町としてこれは天然記念物的な存在である。カジカは流水性のためダムができ